

地理歴史科（日本史B）学習指導案

日時 平成24年10月29日 6校時

対象 2年C組(文型選択)

場所 第2学習室

指導者 打矢泰之

- 1 単元名 第4章 中世社会の成立
- 2 単元の目標
 - ・院政期に台頭した平氏が、保元・平治の乱を経て平氏政権を樹立するにいたった経緯と、平氏政の特徴を理解させる。
 - ・土地支配をめぐる地頭と荘園領主の対立や、公武の關係に着目させ、鎌倉幕府の勢力の変化について考察させる。
 - ・蒙古襲来の影響と社会の変化について理解させる。
 - ・文字・絵画資料を活用し、幕府の仕組みや土地支配のあり方、商業や農業の発展など社会の変化について理解させる。
 - ・社会の変化や東アジア世界との交流をふまえ、鎌倉文化の特徴を理解させる。
- 3 生徒の状況 2年C組(男子5人、女子14人)
全体的におとなしいクラスではあるが、授業に取り組む姿勢は真面目でよく集中できている。考えを自分の言葉で説明する力は弱いものの、基礎的な知識はある程度定着している。
- 4 教材 『詳説日本史』山川出版社 『最新日本史図表』第一学習社
- 5 単元の指導計画

院政と平氏の台頭	4時間	
(13時間) 鎌倉幕府の成立	2時間	
武士の社会	2時間	
蒙古襲来と幕府の衰退	2時間	
鎌倉文化	3時間	本時 1/3
- 6 本時のねらい 法然・親鸞・一遍の教えについて、当時の社会状況や従来の仏教と結びつけて理解させる。…D
生徒に自分の考えを発言させ、それを全員で共有してさらに掘り下げることで理解を深めさせる。B
- 7 指導の過程 評価の観点 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断 C：資料活用の技能・表現 D：知識・理解

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・平安時代の浄土教の内容を復習する。 ・浄土教が流行した背景を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浄土教の教えだけでなく、誰が布教したのかも生徒に答えさせる。 ・平安時代末期がどのような社会だったのか、何が起きていたのかを具体的に答えさせ、浄土教が流行した背景についての理解を深めさせる。 	B・D：浄土教の内容や背景を理解し、自分の考えを発言できているか。
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> ・『地獄草子』をみて人々が地獄に落ちる原因を考える。 ・浄土宗について理解する。 ・法然が旧仏教側から批判された理由を考える。 ・悪人や善人とは何かを考え、親鸞の悪人正機説について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を通して人々が死後の世界への不安を抱いていたことを理解させる。 ・法然の教えを誤解した人々がいたことを『地獄草子』の部分と結びつけて理解を深めさせる。 ・殺生を行う武士や狩人・漁民たちが救いの対象となったことを理解させる。 ・踊念仏に集まっている人々にも注目させ、教えが広まった階層も理解させる。 	B・C：資料を読み取り、自分の考えを発言できているか。 B・C：資料の適切な読み取りができているか。
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容が理解できているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の仏教との違いや、教えが武士や庶民にも広まったことを確認させる。 	D：本時の内容が理解できているか。

授業後の研究協議会の記録【地歴公民科】

授業者の感想 (打矢先生)

配布プリントの左側を終える予定だったが、終わらなかった。本時の狙いは、生徒に話させ、質問を繰り返していく中で理解を共有することであった。発問がうまくいかず、前半で時間がかかってしまった。前半の宗派の説明の際、ややくどくなってしまったのも反省点である。生徒の発言に対して適切な切り返しができなかったのも今後の課題である。普段から積極的に発言するような雰囲気ではないが、正解がないような発問をされると生徒としてはさらに苦しかったのではないかと。

参観者の感想

・本時の狙いである、生徒に発言させるということは達成できていたように感じる。生徒の発言をもとに悪人正機説の説明につなげていった展開は非常にわかりやすかった。やや導入が長く、展開をさらに深めることができれば良かったのかと感じた。(公民科 高橋直)

・担任として、教室に各教科のプリントが大量に、無造作に散乱しているのを見る。この授業のように、計画的にプリントを用意する意義を、各教科担任が指導してもらえればと感じた。(体育科 伊藤)

・生徒に多く発言させ、共有しようという熱意を感じた。発言する場面を設定することで、生徒が授業に参加しているという実感を得られるのではないかと、『歎異抄』を一行だけ取り上げていたが、時間があればもう少し取り上げたかったのかなと感じた。生徒にとっては、視聴覚教材もあり、イメージしやすい授業であったように感じた。(地歴科 菊池文)

・心を込めて、丁寧に授業をしているという印象であった。庶民の生活の中に仏教が浸透しているということ、映像や説明等を通してイメージさせることができていた。歴史の授業は、どれだけ当時の生活や人間の心情をイメージできるかが重要だと思うが、それが十分に達成できていた。(芸術科 田村)

・視聴覚教材の活用について、皆が顔を上げて同じものを見ている点で、その有効性を感じた授業であった。自分自身も反省している点である。発問について、断片的な知識をいかに系統立てて説明できるようにするか、一問一答形式で終わらないような言語活動の充実について教科全体で研究していくべきであると感じた。(地歴科 栗林)

・普段の授業では、一問一答の「知識の確認」をすることが多い。資料集はページがあっちこちに飛び、集中力が切れてしまいがちなので、今回は思い切ってプロジェクターを使用した。(地歴科)

関谷指導主事

1か月前課題を意識しながら、工夫して授業を展開していた。生徒に考えさせる学習活動や生徒の積極的な発言が見られ、生徒自身も意欲的に集中して取り組んでいた。導入でプロジェクターを使用した点も、教材・教具の工夫が見られた。生徒に適切な助言を与えてさらに意欲を出させ、達成感を与えることも必要であると感じた。一方で、生徒の発問を生かしてそれをさらに広げるという点については少し課題が残ったと感じる。1対1で終わってしまっていたので、それをさらに全体で共有することで広がり・深まりが出るように感じる。悪人正機説についても、生徒の予想を覆すような展開ができたのはよかった。資料集の使い方についても、指示を明確に、しっかりと区切ることでメリハリのある学習活動になる。そのためにも、適切に指示を聞いているか、細かな目配りをする必要がある。また、ラインを引くなどの作業をさせることでより深く印象づけることが可能となる。プリントを使用することの意義についてはその都度生徒に説明しながら使用していくことが重要であると感じた。